

亀島消防団

【中村区】

我が消防団の区域は、中村区の東部で名古屋駅の北西に位置しています。人口は約五千三百人で、世帯は約三千二百戸ですが、亀島学区も例外なく高齢化が進み、都会の中の過疎地となって小学校も3校が平成十四年に統合されました。しかしながら、住民の多くは人情味溢れ、住みやすい下町が多く残っています。

消防の沿革は明治三十年に愛知郡中村、中村消防組第一部として組織が発足し大正十年に名古屋市と隣接町村の合併により西区に編入され、昭和十二年に行政区域増設により中村区に改編を経て昭和二十三年十一月に現在の消防団ができました。

【学区とのかかわり】

広域災害が発生した場合、学区の方々に対する呼びかけは、近年になりそれまでとは違い、自助力、共助力の向上即ち、「自分の命は自分で守り、皆で助け合う。」を



学区女性会 救命講習

重点に置いて、お話ししています。年に一度の学区自主防災訓練は勿論、「救命講習」「訓練指導」等を通じ災害時には、安全行動が取れるよう手助けが出来ればと思います。

その他の学区行事に参加協力も行っています。夏の盆踊り大会には、会場警備、やぐらの組み立て解体を受け持っています。また、学区運動会には広報活動として、ポンプ操法を披露し消防団員募集に努めています。秋には「餅つき大会」に参加し火災予防の役割を果たしています。

【キャンプ訓練】

平成二十七年までは土日を利用してキャンプ場での訓練を行っていました。昭和五十五年頃から約三十五年間でしようか。場所は長野県の木曽福島キャンプ場で二時間半かけての移動でした。



ロープ結索訓練

昔は今日ほど「コンプライアンス」が厳格に言われなく、消防署員も講師として同行し訓練を行って頂きました。今でも同行した署員に会った時は、当時を思い出し懐かしんで会話が弾みます。

訓練のメニューは

ホース巻訓練、ロープ結索訓練、心肺蘇生法訓練、各個訓練、放水訓練、ボート操作訓練等様々な訓練を年度ごとに分けて計画的に行いました。しかし、訓練の中



放水訓練

で最も楽しみは、飯ごう炊飯訓練（夕食準備）でサラダの得意な団員、魚を刺身におろす団員、米を研ぎ「お釜」で炊く団員、肉を焼く団員など、それぞれ分担して作業をし、全員が食卓（コンパネがテーブル、足がビールケース）を囲み談笑するのです。多少、間が空きましたが、またキャンプ訓練を再開するよう努力したいものです。

【手作りのお祭り】

平成七年の春のことです。消防団会議の帰り、とある居酒屋、四〇五人の団員で「みこし」を担ぐという話が決まりました。しかも購入するには高額なので手作りが条件でした。幸い大工の団員がいましたのでそれが可能でした。作業中にはTV局の取材も受け、次第に盛り上りました。また、町内の寄付協力も受け、アマチュアの太鼓グループの参加も得てお祭りが楽しみになりました。今年の十月で、二十六回を迎えますが、担ぎ手不足、資金不足など不安がありますが、皆さんの協力を頂いて、これからも続けていきます。



神輿 どっこい衆弥栄